

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局 地域道路課

担当課長名： 世利 正美

| | | | | | |
|--------------------------|--|---|--|-------|-------|
| 事業名 | 一般県道 <small>あんきやばさねく</small> 安脚場実久線 <small>せそう</small> 瀬相工区 | 事業区分 | 地方道 (奄美) | 事業主体 | 鹿児島県 |
| 起終点 | 自：鹿児島県大島郡瀬戸内町瀬相地内 至：鹿児島県大島郡瀬戸内町武名地内 | 延長 | 4.59km | | |
| 事業概要 | 瀬相工区は、延長4,590m区間の道路改良であり、現道は幅員狭小かつ線形不良箇所が多く、交通の隘路となっている。また、当路線は島内唯一の病院がある瀬相集落と各集落を結ぶバス路線であり、住民にとって重要な生活幹線道路である。事業区間内には小中学校もあるが、歩道も整備されておらず、幅員狭小であることから、安全で円滑な交通の確保を図り、災害時における緊急輸送道路の確保や、安脚場砲台跡等への観光地へのアクセス改善など地域振興の発展に資する目的として道路整備を行う。 | | | | |
| H9年度事業化 | H 年度都市計画決定 (H 年度変更) | H9年度用地着手 | H9年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 45億円 | 事業進捗率 | 77% | 供用済延長 | 3.7km |
| 計画交通量 | 1,100台/日 | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.4 | 総費用 (残事業/事業全体) 9.7/54 億円 事業費：9.0/52億円 維持管理費：0.67/2.2億円 | 総便益 (残事業/事業全体) 24/77 億円 走行時間短縮便益：23/75 億円 走行費用減少便益：0.56/2.3億円 交通事故減少便益：0.00/0.14億円 | 基準年 | 平成18年 |
| 感度分析の結果 | 事業の効果等 | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（利便性の向上が期待できるバス路線 時間短縮 4分） ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消 W=3.0m） ・道路の防災対策・危機管理の充実（第二次緊急輸送道路、現道の防災点検要対策箇所2箇所の解消） 他2項目に該当 | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | 一般県道安脚場実久線は緊急輸送道路に指定されているほか、島内唯一の医療機関を結ぶ路線であることや、加計呂麻島と大島本島を結ぶフェリー発着所や主要な観光地である安脚場砲台跡等へのアクセス向上など、地域交流促進が図れるため地元は早急な整備を望んでいる。 | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | 特になし | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 用地買収については96%完了し3,700mの部分供用を行っている。また、現在バイパス区間のトンネル及び明かり部を改良中。 | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 全体としては計画どおりに進んでいるものの、俵トンネル終点側坑口付近の一部の地権者の同意を得るのに期間を要したことやトンネルを含むバイパス工事に期間を要した。今後は終点部の武名地区の整備を進めていく予定である。 | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 特になし | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 以上状況を勘案すれば当初から事業の必要性重要性は変わらないと考えられる。 | | | | |
| 事業概要図 | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。